「福島牛」ＡＩ肥育確立事業（新規）

１　趣　　旨

福島県の和牛の頭数は、原発事故に伴いその多くが失われ、全国と比較して著しく減少したままである（畜産統計）。特に被災１２市町村では「飯舘牛」「双葉牛」等の銘柄牛の生産が地域の基幹産業であったが現在、壊滅的な状況にあり、肉用牛生産を核とした畜産業の早期復興が望まれている。平成 31 年度から取り組んだ「福島イノベーション・コースト構想に基づく先端農林業ロボット研究開発事業（ICT 活用による和牛肥育飼養管理技術の開発）」により開発した国内初の最新技術を普及させ、肥育経営の安定化に資することにより生産基盤を拡充するとともに、福島牛の安定生産と更なる高品質化を図りブランド力を強化する必要がある。

２　事 業 内 容

（1）「福島牛」ＡＩ肥育確立事業

ア　超音波ＡＩ拠点（評価システム）体制整備

デジタル化した超音波画像から牛枝肉横断面を推定できる AI 肉質評価システムを活用し、県内肥育農家等の管理技術の改善を図るとともに、県内各地域に家畜生体肉質測定機器の導入を行い AI 肉質評価システムの生産現場への定着を図る。

イ　優良素牛導入促進

肥育農家等が県内せり市場から優良な子牛を導入し、導入子牛を肥育する過程で最新 AI 肉質評価システムを活用した肉質診断を実施することで、食肉業者等が求める高品質で均質な福島牛の牛肉生産を図る。

３　事業実施主体　　２の（1）のア　　県
　　２の（2）のイ　　生産者団体等

４　予　算　額　　２１２，１２９千円

５　補　助　率　　定額

６　事業実施期間　　令和３年度～７年度

【担当課：生産流通総室畜産課　０２４－５２１－７３６５】

（新）「福島牛」AI肥育確立事業

（予算額：212,129千円）

背　　景

福島ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ･ｺｰｽﾄ構想に基づく先端農林業ﾛﾎﾞｯﾄ研究開発事業（ICT活用による和牛肥育管理技術の開発）成果の活用

・和牛肥育については、風評により全国平均との差は１割程度（86%R2.10時点東京都中央卸売市場統計情報）、依然として200～400円/kg程度の安値が続く。
・出荷者が経験や勘により肥育牛を出荷することは、不揃いなロット出荷となり、バイヤーから選択されにくい。
・効率的で安定的な肥育牛の飼養管理技術が望まれている。

事業内容

県内畜産農家による優良な素牛の導入を支援し、これら優良素牛を福島イノベーション・コースト構想に基づく先端農林業ロボット研究開発事業により開発した国内初の最新AI肉質評価システムを活用して肥育することにより、安定した高品質な「福島牛」の出荷を促進する。

＜肥育の流れ＞

肥育素牛の導入 → 肥育馴致 ～ 肥育前期 ～ 肥育中期 ～ 後期 ～ 仕上げ期 → 高品質「福島牛」の安定した出荷

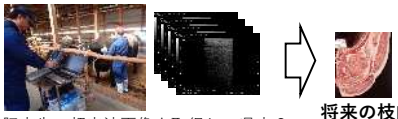
優良肥育素牛の導入支援　（142,000千円）

素牛導入者が行う飼養管理メニュー

生産基盤の維持・拡大を目指し、肥育農家が和牛子牛セリ市場から優良肥育素牛を導入する場合にAI肉質評価システムのデータ蓄積に資する飼養管理メニューの掛かり増し経費の一部を助成する。

要　件	子牛セリ市場より導入（モデル牛、優良牛）
期　間	令和３年４月～　令和４年３月
実施団体	全国農業協同組合連合会福島県本部
対　象	肥育牛飼養農家
補助金額	**モデル牛　→10万円/頭　（300頭）**
	優良牛　→７万円/頭（1,600頭）

ＡＩ肉質評価システムによる肥育管理支援　（70,129千円）



肥育牛の超音波画像を取得し、県内３地方に整備するAI肉質診断拠点で評価

将来の枝肉横断面を見える化

適正な飼養管理、適正な出荷時期を明確化！

AIが学習したビッグデータを基に、成育途中の牛の超音波画像から将来の肉質を推定できる新技術を導入し、最適な時期での出荷やそれに向けた飼養管理が可能になることで、安定した高品質な「福島牛」生産を促進する。

期　間	令和３年４月～令和４年３月
実施機関	県
対　象	生産者団体が推薦する肥育農家
診断件数	1,000頭（予定）

・肥育期間の短縮
・牛舎回転率の上昇
・販売金額の上昇

→ **生産基盤の回復、拡大** →

「福島牛」ブランド力強化
全国的に優位な産地形成